

## サポートセンター 摂田屋

旧長岡市内に17拠点のサポートセンターを展開し、利用者の身近な暮らしの中で地域包括ケアに取り組んでいる。

### 運営方針

- ・24時間365日連続するケアを提供します
- ・サポートセンター構想を推進してその人らしい普通の暮らしを支えます
- ・サテライト型居住施設を展開して施設から地域社会に生活を戻します
- ・小規模多機能型居宅介護を開設して在宅の中重度者を定額で介護します

### 施設概要

設立年月日:昭和57年4月1日(サポートセンター  
摂田屋は2010年10月)

所在地:新潟県長岡市摂田屋5-9-6

- サービス:
- ・地域密着型介護老人福祉施設
  - ・認知症対応型共同生活介護
  - ・小規模多機能型居宅介護
  - ・配食サービス・地域交流スペース
  - ・カフェテラス・キッズルーム
  - ・在宅支援型住宅



### 経緯

#### 昭和57年 特別養護老人ホーム

当時はほとんどサービスが整っておらず、数も少なかったため、市町村を超えてくる人が多く、仕方なく施設に入ってくる人ばかりであった。



施設に入らなくてもいいようにショートステイを設置した。これによって在宅生活の課題や限界がわかった。

#### 平成14年 サポートセンター三和 開設

社員室を転用した空間を利用し、フルタイムでフルサービスを提供することで、施設の機能を地域へ展開させた。

#### 平成28年 旧長岡市内18カ所に事業展開

小規模多機能型居宅介護をサテライト特養に併設し、地域のニーズに応じた単位で福祉拠点をつくっている。キッズルームなどの地域の人々が自由に使えるスペースを設けたりしている。

情報共有に関しては、ICT導入し、ヘルパーから訪問看護、訪問看護から医師など、事業や法人を超えた連携が目指されている。ICTの普及は長岡市で取り組まれており、こぶし園では地域全体が大きな施設となるようなサービス提供を行っている。

## 地域密着型介護老人福祉施設



地域の中に住まいをつくるという目的のため、各居室に玄関がありポストがついている。入居者は自由に入出りすることができる。施設の看板が設置されていないため、周囲の住宅に溶け込んでおり、地域での一体感が感じられる。また、居室は広めに計画されているため、利用者の使い慣れた家具等を持ち込みやすいことや、定員を少人数にすることで機能的な対応にならず、個別対応がしやすいというメリットがある。

## 認知症対応型共同生活介護

9人住みで、壁の色が部屋によって変えられている。家具等は自分で持ち込みで、家事（洗濯等）が自分でできる人は自分でやっている。

## 地域交流スペース・カフェテラス・キッズルーム



入口を入ると写真左のカウンターがあり、地域の人が利用しやすいように、事務職員の顔が見えないような計画となっている。

キッズルームでは「地域の人＝高齢者ばかりではない」という考えでつくられ、小学校高学年までの子供たちが自由に入出りし、利用している。子供が入り込むことで、施設独特の空気感が解消されている。

## まとめ

地域包括ケアの構築が急がれているなか、こぶし園での地域全体を大きな施設とする考え方や取り組みは参考になると思う。このような取り組みを他の地域でも行う際には行政の理解や協力が必須であり、施設の理念や考えを行政に伝える伝え方も重要であると考え。建築分野でも施設の理念をどのように形にして、利用者の生活を豊かにしていくべきか考えなければならないと思う。